

広報

なんたん



Vol.38

【特集】

みんなでつくろう、みんなのまち

2009年12月・

2010年1月号

みんなのでじくろく、みんなのまち

広報 なんたん もくじ

- ② **特集①みんなでつくろう、
みんなのまち**
- ⑧ **特集②財政状況を公表します**
- ⑫ **特集③一生、自分の歯で食べるために**
- ⑭ **人・この道☆ひと筋**
・秋の叙勲・褒章 ほか
- ⑯ **地上デジタル放送への対応はお済みですか**
- ⑰ **南丹ものづくりの祭典**
- ⑳ **行政トピックス**
・平成21年度南丹市表彰式
・平成21年度市政懇談会 ほか
- ㉒ **いきいき南丹**
- ㉓ **人権の窓／環・境・市・民**
- ㉔ **図書館へようこそ！／暮らしにホッと**
- ㉕ **ぶらりなんたん**
- ㉖ **みんなのひろば**
・園部中学校2年勤労体験学習 ほか
- ㉗ **ニュースダイジェスト**
- ㉘ **なんたんミュージアム／わが家のアイドル**

今月の表紙

お弁当を食べたらみんなで歯磨き！「ムシバイキン」さようなら。園部幼稚園の園児は3歳の秋から自分で歯磨きに挑戦、5歳からは“魔法の薬”でうがいをして、虫歯に強い歯を作ります。(特集③)

新しいまち「南丹市」が平成18年1月1日に誕生してから、丸4年が経過しました。まちづくりの指針となる総合振興計画を平成20年3月に策定して以来、10年後の南丹市を見据えながら、計画に基づいて事業の推進、行財政改革などを進めています。

その中で、「行政が担うべきこと」「市民が担うべきこと」そして「市民と行政が協力して担うべきこと」を役割分担する「市民協働」によるまちづくりこそが魅力あるまちの将来像として、その実現に向けて取り組んでいます。

それぞれの地域・分野においては、すでに積極的に活動されている方々・団体がたくさんあります。皆さんの活動を紹介しながら、これからの市民協働のあり方について、共に考えていきましょう。



NPO法人美山ほっとステーション
理事長 中島 慎司 さん

これまで美山町の宮島振興会でやっていた都市交流事業を引き継いで、平成21年4月に「NPO法人美山ほっとステーション」を立ち上げました。都市部から美山に多くの方に来ていただき、美山の素朴な良さを知ってもらうとともに、観光客の増員が地域の経済効果にもつながればと思っています。そしてもう一つは、都会の人に美山を紹介することで、地元の人にもその良さを再発見してもらいたいという思いがあります。

この交流事業は、田舎の良さ、循環型であった昔の暮らし、そして人と人とのふれあいを考える機会にもなっています。本物の豊かさは、金やものだけでなく、「心」の部分だということ。一緒に取り組む楽しみや、気持ちを一つにして何かを作り上げていくことに、価値観を見いだしていかなければいけないでしょう。こういった部分を大切にしなければ、これからの「協働」というものも成り立っていかないのではないのでしょうか。

行政の皆さんには、私たち市民が活動するにあたって、不得意な部分をフォローしていただいていることに感謝しています。市民と行政は得意分野をお互いに担って、助け合っていくことが理想だと思います。

人や心のつながりを大切にしながら美山の良さを広め、そして私たち自身も楽しみながら、地域が活性化していく活動を今後も継続していきたいです。

▲得意分野を理解し、フォローしあえるまちづくり

みんなで納得しながら、共に取り組むまちづくりを▼



にぎわいコンソーシアム園部
代表 高橋 一宏 さん

「園部のまちにもう一度にぎわいを取り戻して活気のある場所に」との思いで、平成21年3月ににぎわいづくり協議会設立準備会ができ、市民と行政と地域が一緒になって、市民一人一人、個人を大切にしました。同年10月に「にぎわいコンソーシアム園部」を設立し、現在NPO法人（特定非営利活動法人）化に向けて進めています。

まず、園部のまちには何が必要なのか、行政から与えられるのではなく、市民が考えて提案することが大切。そのためには、地域の人々が納得をして、一緒に取り組んでいくスタイル作りが必要だと思っています。

そこで、地域の皆さんの声を拾い上げる「にぎわいカフェミーティング園部」をあちこちで開くことにしました。苦情もあれば自分た

ちの反省も出てくる、そして希望・要望もたくさんあるでしょう。それがこれからの自分たちのまじの事を考えることであり、今後の方針や事業を進めていくための材料となります。

行政は取りまとめるのかそれをコーディネートするのは得意でも、どう興していくかということをお考えするのは不得手だと思います。その部分を担う役割として、地域のみんなの意見を集約してやる気を起こし、行政に伝えていくことが私たちの仕事だと思っています。みんなで考えるからこそ、まちに愛着ができるのではないのでしょうか。

旧町ごとにそれぞれ活動している女性の団体が、男女共同参画社会の実現に向けて市全域で活動を行うために始めたのが本会の前身となる「なんたん女性のネットワーク仕掛け人会議」。そして平成21年6月27日に「女性ネットワーク会議」を設立しました。市内の女性たちが親睦を図りながら、住み良い地域社会を築くために取り組んでいます。

その学習と啓発の機会として、「キラリなんたん」というフォーラムや、「キラリなんたんカフェ」などを開催しています。このカフェは、男性にも参加していただいて、コーヒーなどを飲みながらざっくばらんに会話をする場です。9月に開催したときも、年配の男性が普段の生活の中のちょっとした心掛けが男女共同参画につながると実感されたことを話していただき

ました。大変有意義な活動で、定期的に開催していきたいと思っっています。また、会員の活動を紹介するホームページの開設もしたいです。つながりが広がり、知り合いや仲間が増えていくことは楽しみです。

女性がはつらつとしているまちは元気だと思えます。南丹市の男女共同参画行動計画（平成21年3月策定）にもあるように、市役所でも女性の管理職の割合が少なくも30%になるように努めていただき、あらゆる分野において男女間の格差を改善していく先駆者となつて共に取り組んでいければと思っっています。



南丹市女性ネットワーク会議
副会長 木戸 信子 さん

▲女性がはつらつとしている、元気なまちに

分担し支えあって、地域みんなで暮らしを守る▼



有限会社 タナセン
代表取締役 柿迫 義昭 さん

平成9年、美山町にも農協合併による支所廃止問題が起こり、地域拠点の存続を願う住民の声を受けて、平成11年に住民自らが出資して有限会社「みなさまのお店タナセン」ができました。人・情報交流、生活の拠点として、購買・農事・福祉の3本柱を立てています。

鶴ヶ岡地域には18集落あり、高齢化の進む集落も多いので、住民の気力を維持していくこと、里山の景観、田畑をみんなで守っていくことが大事。例えば、タナセンの店先に開く野菜の無人販売には、農家のおいしいちゃんおばあちゃんが毎朝野菜を運び、それを求める消費者があることが励みにもなっています。できるだけ店に来てもらって会話を交わすことが大切ですが、都合で来られない方などには購品を届ける「ふれあいサポート便」という配達事業も始

めました。安否確認も含めてちょっとした話し相手にもなります。配達に出た店員はなかなか帰って来ませんよ。

また、集落の農業を地域全体で守るために広域営農の取り組みをしました。自分の田畑をどう守るかを自分で考え、個人でできない部分は地域で守ろうとする。それでもできない仕事の部分をタナセンが担う。こうして分担して、できることをお互いに助け合うことが地域を守ることだと思っっています。

この地域マネージメントに対して、行政も協力をしていただけのようなお願いしたいと思っっています。



株式会社山田製油 胡麻工場
寺阪 亮さん

日吉町胡麻の工場では胡麻油などの製品を作っています。シヤレのようですが、まさに「胡麻で胡麻を」との思いで平成14年に工場が造られました。原材料となる胡麻は99.9%が海外の契約農家で作られています。この胡麻の地で胡麻を生産したい、そしてそれが地域活性化につながればという思いで現在地元の農家の方々にお願いして胡麻栽培を進めています。胡麻栽培は天候に左右されるために難しく、農家の方々の知恵も借りながら協力し合って少しずつ栽培面積を増やしています。

私自身、この地元出身ですが、平成17年に入社するまではまったく胡麻にも「ものづくり」にも興味がありませんでした。しかし、ここで胡麻に携わり、農家の方々とこの交流の中で成長させてもらいながら楽しくやりがいを感じて仕事をしています。

最近やっと少量でも胡麻がしぼれる機械が入り、純胡麻産の胡麻油を作ることができました。地域活性化のために栽培農家の皆さんの顔写真をアピールしながら販売していきたいと考えています。また昨秋には、初めて胡麻の収穫祭を開催し、地元をはじめ多数の方に参加していただきました。新たな地域の魅力としてこれからもどんどん広げ、南丹市内の畑や放棄されている土地を胡麻でいっぱいに行きたいです。そして地元の若い人たちが働ける場となるよう普及に努めたいです。

▲地元を胡麻栽培で魅力のある地域に

地域の人材、場所を生かした「まちの活性化」▼

「日本酒のんで大人のライブを！」の一言から平成18年6月に始まった『歌聴風月酒蔵ライブ』。最初は面白いこと、楽しいことをやりたくて何も分からない素人が始めたライブでしたが、終わったときにはスタッフみんなが達成感と充実感を得て、満足げなお客さまの笑顔で自分たちでもできるんだ！という自信につながりました。酒蔵ライブは今年6月で5回目を迎えます。酒蔵独特の異空間の中で聴く音楽、浴衣隊のお出迎え、ここでしか感じられない体験。「楽しかった。また来るよ」のお客さまの一言が今につながっています。

いつも根底にあるのは「この地域を元気にしたい！お客さまに喜んでもらいたい！そして自分たちも楽しみたい！」という思いです。こういった思いがさらに地域を巻き込んで、つながって、さまざま活動に広がっています。

八木の花火大会が財政難でなくなるかもしれないという話を聞いたときも、その原因の一つが大量のごみ処理費用だと知り、自分た



歌聴風月実行委員会、ECOLレンジャー
桑原 修子さん 秋田 裕子さん
山口 智子さん

ちにできることは何か、ごみ拾いだったら私たちでもできるんじゃないかと平成19年の夏から子どもたちと一緒に始めた取り組みが「ECOLレンジャー」。それが天ぷら油の回収、廃油キャンドル作りやバイオ燃料への再利用の取り組みに発展しています。

地域の人材や場所を生かして、地域みんなでのまちの活性化や子育てにかかわっていけるようなまちななればと願っています。

共に担うまちづくりを目指して

南丹市における市民参加と協働によるまちづくりの手法を検討するために設置された「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」。学識経験者や市民団体代表、公募で選ばれた市民と、行政職員からなる15人の委員により構成されています。平成20年9月5日に第1回目の委員会を開催して以来、約1年間にわたって市民が担うべきこと、行政が担うべきこと、市民と行政が協力して担うべきことなどを基本テーマに、何度も話し合いが重ねられてきました。

そして、ルールづくりや仕組みについて取りまとめられ、「南丹市



▲「提言書」を佐々木市長に手渡す中田副委員長（中央）

市民参加と協働の推進に関する条例」を制定することを提案した「提言書」が11月26日に佐々木市長に手渡されました。

今後は、条例制定に向けて具体的に進めていくとともに、市民の皆さんにも広く理解いただき活用されるように取り組んでいくこととなります。

人と人、人と地域、人とまちがつながり、共に責任を持ち協力し合える社会の実現のために、みんなの知恵と努力で市民参加や協働をはぐくんできていくことが、まちの活力を生むこととなるでしょう。

これからの「市民が共に進めるまちづくり」に期待

市民と共に担う

まちづくり手法検討委員会

委員長 新川 達郎 氏

(同志社大学大学院

総合政策科学研究科長)



私たち「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」は、1年余りの検討を経て提言書をまとめ、平成21年11月に市長に報告しました。

この提言では、「市民と共に担うまちづくり手法」の検討にあたって、まず市民参加と協働を進めるまちづくりの原則を明らかにしました。次に、市民参加と協働のルールづくりの重要なポイントを明らかにし、さらに市民参加と協働を進めるために必要な仕組みづくりの提案をしています。具体的には、市民参加協働推進条例の提案、市政への市民参加手法の整備、市による市民活動の支援策、市民自身がその活動を活発にしていこうとする提案をしています。その特徴は、単に市民参加と協働のルールづくりだけにとどまらず、市民がやるべきこと、そして市がやるべきことを、具体的に示そうとした点です。

南丹市には、形はさまざま違いますが、市民自身が地域づくりに積極的に活動してきた分厚い歴史がありますし、新しい市民活動やボランティア活動も活発になってきています。それを前提としながら、さらに発展させるにはどうしたらよいのか。また、合併によっ

て新たに生まれた南丹市として、どのようなまちづくりを市民と共に進めていくことが、より良い未来に結びつくのか。私たちは、一つの方向として、市民自身が市民の活動あるいは地域の活動を支え合うことが大切だと考え、そのための仕組みとしてまちづくり応援団や中間支援組織によるコーディネートなどを提案しました。そして行政は、こうした地域や市民活動を、『ヒト、モノ、場、カネ、情報』などの面で、具体的に支えることが大切だとしました。

これからの南丹市政においては、市民と共にまちづくりをしていくこと、そのとき市民参加と協働の原則に基づいて施策の展開をすることは、むしろ当然と言わねばなりません。その上で、具体的な成果を出していくことが望まれているのです。今後の南丹市のまちづくりは、市民と市が置かれている厳しい社会経済的条件の中で、それぞれの地域や一人一人の市民の力、また各種市民団体やボランティアグループの力を合わせ、それらを基盤として進めていくほかありません。南丹市政も市民と連携協力することで、はじめて効果的にまちづくりを進めていくことができます。

この提言は、そうしたまちづくりのための当面の一步を示したものだと考えています。この提言書の内容は早期に実現されるものと信じていますが、もちろんこの範囲で十分だ、などというのではなく、近い将来、さらに市民参加と協働のまちづくりが充実し発展していく、いわば「次のステップ」を検討し展望していただきたいと考えています。

この提言書は、委員会の各委員が熱心に議論をし、検討を進めた結果です。至らないところがあるとすれば、それは委員長の責任と承知してはいますが、これからの南丹市にとって必要な市民参加と協働によるまちづくりについては、その方向と当面の手法を明らかにできたのではないかと自負しています。

これまで意欲的に検討をいただいた委員各位、特に最終段階で重責を担っていただいた中田副委員長、取りまとめにあたってご尽力をいただいた事務局スタッフ、そのほか関係の皆さまにあらためて感謝を申し上げます。

この提言を機会に、これからの南丹市が、さらに素晴らしいまちづくりを進めていかれることを期待します。



「みんなのまち」を みんなの力で

南丹市長 佐々木 稔納

このたびは、これからの南丹市の大きな柱となる「市民参加と協働」によるまちづくりの手法をご検討いただき、「提言書」により、その内容についてご報告賜りましたことを心から感謝申し上げます。

新川委員長をはじめ、「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」委員の皆さんには、公私ご多忙の中、幾度となく話し合いの場を持っていただき、「南丹市のええところ、あかんとこ」、現状の把握や市民ニーズなどについてさまざまな立場から熱心にご研究、ご検討いただきました。

南丹市が誕生して、丸4年が経

ちました。私たち行政の責務として、南丹市総合振興計画や南丹市行政改革大綱を基に、市民の皆さんが「住んで良かった」と実感できるまちづくりを推進しているところですが、しかしながら、市民の皆さんの行政に対するニーズは多様化しており、行政だけで取り組むことは誠に困難な状況にあります。そこで、市民・地域・行政など、それぞれが役割を自覚し、分担または補い合いながら課題の解決に取り組んでいく必要があります。

今回導かれた南丹市におけるまちづくりの手法をふまえて、一定のルールとなる条例を定め、今後は市民の皆さんと行政とが相互の信頼関係のもとに、お互いの役割を明確にし、知恵と力を出し合いながら一緒に暮らしやすいまちづくりを進めていくべきであると考えております。

この「市民と共に担うまちづくり」は、行政の思いや考えだけでなく、実現できるものではありません。地域課題の解決や行政運営に市民の皆さんにご理解いただき、参画しようと思っただけの気運の醸成が必要です。まずは市政に関心を持っていただき、市民の皆さんからも働きかけていただけるよ

うに、市民目線に立った施策の展開、分かりやすい説明など、行政責任を十分に果たし、市政全般についての情報を皆さんと共有できる仕組みづくりに取り組んでまいります。

市民の皆さんの中には、NPO法人（特定非営利活動法人）や市民団体として、地域における課題解決のために、さまざまな分野でニーズに合わせた活動を展開されている方々が多数おられます。こういった方々の輝かしい取り組みについて、継続的、発展的に活動されるよう、行政として連携を取りながら、でき得るサポートをしてまいりたいと存じます。

何よりもかけがえのない「ひと」、そして先人から受け継いだ「もの」を南丹市の宝として一層磨いていくため、共に手を取り、きずなを深めながら、みんなの力で「みんなのまち」を築いてまいります。

を公表します

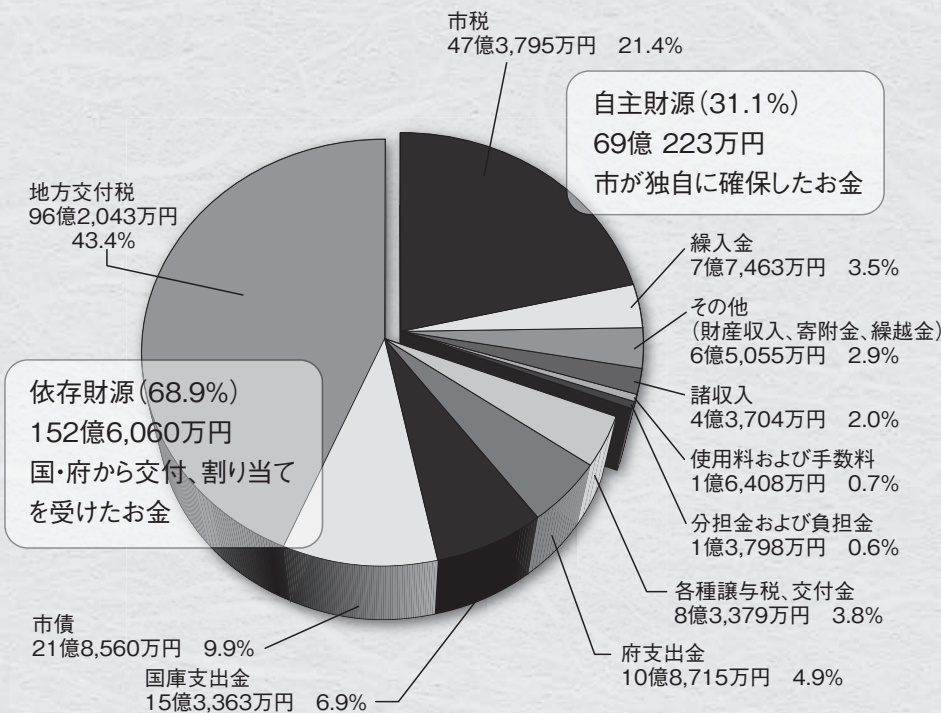
市民の皆さんの税金がどのように使われ、市の財政がどのような状況にあるか知っていただくため、年2回財政状況を公表しています。

今回は、平成20年度の決算状況（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）と、平成21年度の上半期の予算執行状況（平成21年4月1日から9月30日まで）をお知らせします。

平成20年度 決算

※単位未満四捨五入

一般会計 歳入
221億6,283万円



■ 一般会計 ■
平成20年度の一般会計決算は、歳入総額221億6,283万円、歳出総額216億4,810万円となりました。歳入歳出差引残高は5億1,473万円。このうち翌年度へ繰り越す事業の財源1億3,594万円を差し引いた実質収支額は、3億7,879万

円の黒字決算となりました。ただし、事業実施にあたっては、市の貯金となる財政調整基金から4億8,904万円を繰り入れるなど厳しい決算状況となっております。今後、事務事業の見直しを積極的に、長期的に安定した健全な財政運営を目指します。

健全化判断比率	指標	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
	平成20年度	- ※	- ※	19.7%	198.5%
	早期健全化基準	12.83%	17.83%	25.0%	350.0%
	財政再生基準	20.00%	40.00%	35.0%	

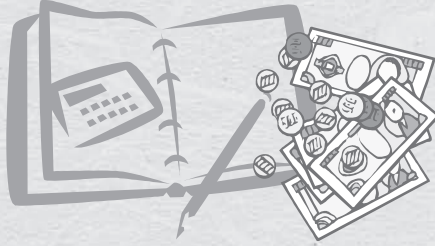
※赤字額がないため、「-」としています。

資金不足比率	特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
	南丹市上水道事業会計	- ※	20.00%
	南丹市簡易水道事業特別会計	- ※	
	南丹市下水道事業特別会計	- ※	

※資金不足額がないため、「-」としています。

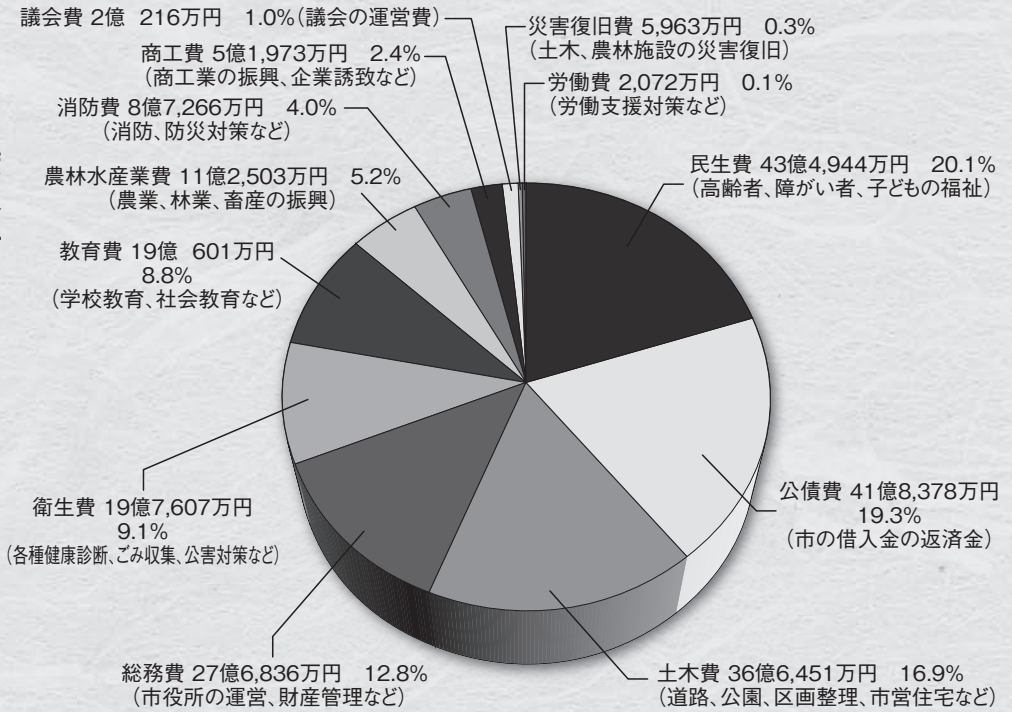
「財政の健全化判断比率等」
地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定により、地方公共団体は毎年度、決算に基づいて健全化判断比率などを算定し、監査委員の審査に付した上で、その意見を付けて議会に報告するとともに、市民の皆さんに公表することとしています。

『南丹市の家計簿』



財政状況

一般会計 歳出
216億4,810万円



■ 特別会計
特別会計とは、特定の事業を行うために一般会計と分けている会費ですが、その経費は受益者（サービスを利用する方）が負担するのが原則です。南丹市には9つの特別会計があ

■ 企業会計
企業会計とは、市が直営する企業の会計のことです。経営できる企業は、公共の利益を目的とするもので、特別に定められたものだけ

特別会計

会計名	歳入	歳出	差引
国民健康保険事業	36億8,249万円	34億5,762万円	2億2,487万円
老人保健事業	4億5,082万円	4億7,318万円	▲2,236万円
介護保険事業	29億6,093万円	28億7,609万円	8,484万円
市営バス運行事業	5,432万円	4,878万円	554万円
簡易水道事業	7億4,953万円	7億2,599万円	2,354万円
下水道事業	31億9,821万円	31億5,166万円	4,655万円
商品券事業	1,248万円	1,248万円	0万円
土地取得事業	2億576万円	2億576万円	0万円
後期高齢者医療事業	4億1,195万円	4億554万円	641万円

企業会計

会計名	歳入	歳出	差引	
上水道事業	収益的	4億4,406万円	4億382万円	4,024万円
	資本的	8,061万円	2億4,361万円	▲1億6,300万円

り、それぞれの平成20年度の決算状況は右下の表のとおりです。
南丹市では水道事業を企業会計としており、収益的収支では、4,024万円の純利益（黒字）を計上することができました。資本的収支では、1億6,300万円の収入不足が生じましたが、留保資金などで補てんしました。

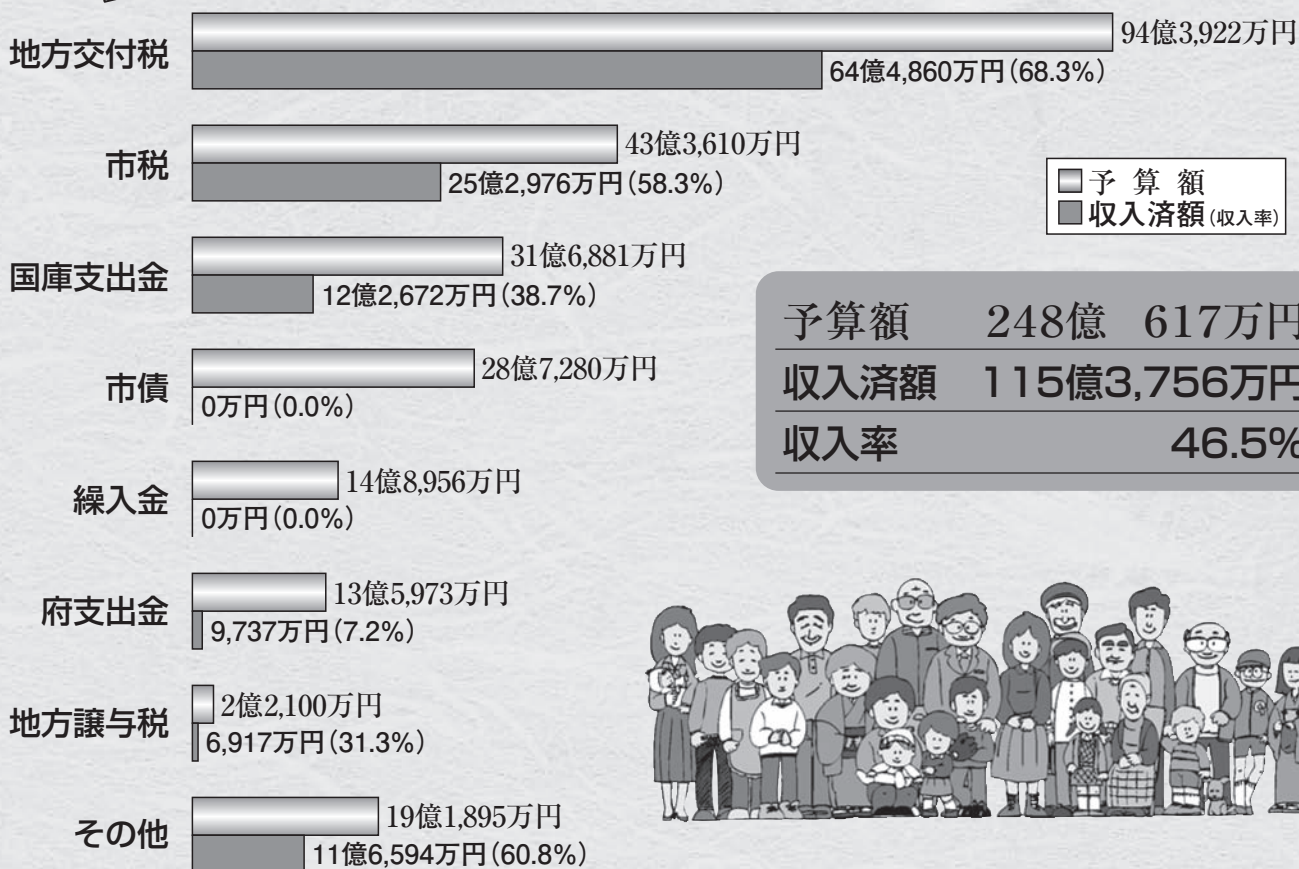
上半期歳入・歳出執行状況

平成21年度 予算

※繰越予算含む、単位未満四捨五入

歳入

一般会計 予算執行状況



市の借入金(市債)

小・中学校の校舎のように将来まで役立つ施設の建設費などを、次世代の人々にも負担していただくという考えに基づき、借り入れるものです。

借入現在高 **627億 208万円**

一般会計	313億 73万円
特別会計	294億8,814万円
企業会計	19億1,321万円

市民1人当たりの借入金 **180万円**

うち地方交付税で補てんされる分(見込み)は約331億円(52.8%)で実質市民1人当たりの借入金は85万円となります。

市民1人当たりに使われる市のお金

71万円

市民1人当たりが負担する税金(市税)

12万円

1世帯当たりに使われる市のお金

183万円

1世帯当たりが負担する税金(市税)

32万円

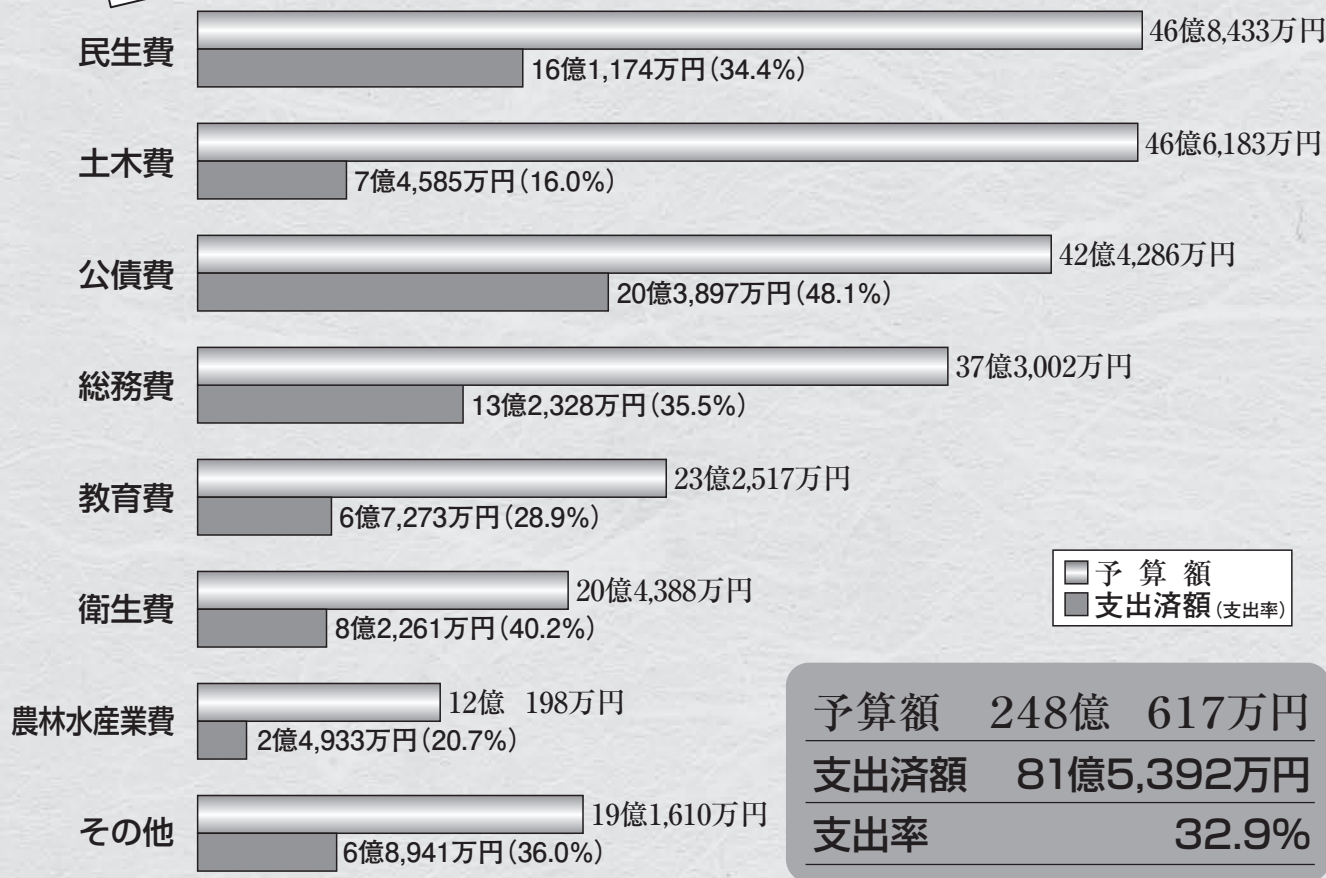
◆算出方法◆

市民(世帯)に使われるお金=総予算÷人口または世帯数
市民(世帯)が負担する税金=市税予算÷人口または世帯数

※人口 34,908人 世帯数 13,559世帯
(平成21年9月30日現在)

歳出

一般会計 予算執行状況



特別会計 予算執行状況

会計名	予算額	収入済額	収入率	支出済額	支出率
国民健康保険事業	36億6,999万円	13億9,437万円	38.0%	15億 16万円	40.9%
老人保健事業	1億 462万円	1,228万円	11.7%	3,075万円	29.4%
介護保険事業	29億8,156万円	12億 152万円	40.3%	11億6,028万円	38.9%
市営バス運行事業	5,022万円	1,563万円	31.1%	2,104万円	41.9%
簡易水道事業	8億1,779万円	2億1,508万円	26.3%	2億3,527万円	28.8%
下水道事業	29億7,840万円	3億2,174万円	10.8%	11億5,125万円	38.7%
土地取得事業	9億1,371万円	1億4,904万円	16.3%	1億4,863万円	16.3%
後期高齢者医療事業	4億7,466万円	1億2,855万円	27.1%	1億3,434万円	28.3%

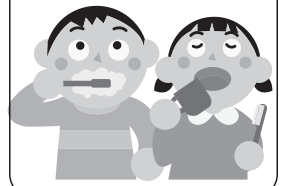
財政課
0771-680018
【お問い合わせ先】

企業会計 予算執行状況

■上水道事業

区分	収入予算額	収入済額	収入率	支出予算額	支出済額	支出率
収益的	4億3,410万円	2億1,675万円	49.9%	4億2,676万円	7,244万円	17.0%
資本的	4,996万円	989万円	19.8%	4億9,070万円	9,677万円	19.7%

一生、自分の歯で 食べるために



健康で豊かに生きるためには、毎日の食事が重要です。でも、虫歯があったり、かみ合わせが悪かったりすると楽しくおいしく食事ができないだけではなく、健康にも大きく影響します。

一生、自分の歯でおいしく食事をするために、歯を大切にすることを身に付けましょう。

丈夫な歯はお母さんからの贈り物

歯は、いつごろできるのでしょうか。実は、胎児期、つまりお母さんのおなかの中にいるとき、すでに胎児の歯茎の中で歯の形成が始まっています。でも、お母さんの歯のカルシウムが赤ちゃんに奪われるわけではありません。お母さんが食事で摂取する栄養から作られていきます。ですから、健康で丈夫な歯質の子どもを生むためには、妊娠中のお母さんが、カルシウムや良質なたんぱく質などバランスの良い食生活をするのが重要になります。

子どもの歯の健康を守ろう

虫歯は、歯の質、生活環境や食生活、そして細菌がかかわりあつてできます。

生まれたばかりの赤ちゃんの口の中には、虫歯菌は存在していません。乳歯が生え始めるころから3歳ぐらいまでに、主に保育者からの口移しやスプーンの共有などでつばに混じった虫歯菌が子どもうつってしまいます。でも、赤ちゃんとのスキンシップは大切なこと。保育者は、丁寧に歯磨きをするように心掛けて、虫歯があれば治療するようにしましょう。

また、子どもの乳歯は、6歳ごろから順番に永久歯に生え変わっていきます。だからといって、「どうせ生え変わるから…」と、乳歯の虫歯を放っておくと、乳歯のすぐ下で育っている永久歯の歯並びや歯質にも影響を与えることとなります。

子どもが小さいうちから、家族みんなで「食べたら歯磨き」の習慣を付けるようにしましょう。

フッ化物洗口への取り組み

旧園部町では、平成4年度から「フッ化物洗口」に取り組んでいます。この取り組みは、園部小学校から始まり、翌年度からは園部町内のすべての幼稚園・保育所の5歳児および小学校で実施を開始しました。

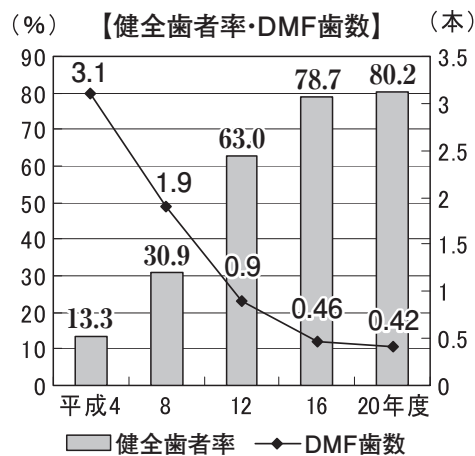
ところで、「フッ化物洗口」とは何でしょうか。「フッ化物」とは、フッ化ナトリウムのことです、その水溶液を口に含んで30秒から1分間、ブクブクとうがいをして吐き出します。平成15年に厚生労働省が発表した「フッ化物洗口ガイドライン」では、特に永久歯が生える直前の4歳児から15歳児まで継続することで、虫歯予防対策に最も大きな効果があるとされています。生えたばかりの幼児の永久歯は柔らかく酸に弱いため、フッ化物で歯を硬くしてその抵抗を強めます。また、第二大臼歯^{だいにかうし}が生える中学校期、そして歯ぐき^{ぐみ}がやせてくる高年齢期にも虫歯の予防効果があるとされています。

園部幼稚園が全日本学校歯科保健優良校表彰を受賞

園部幼稚園は、このフッ化物洗

口をはじめとする歯科保健指導の取り組みが優良と認められ、第48回全日本学校歯科保健優良校表彰の日本歯科医師会会長賞を受賞しました。京都市を含め、京都府内で同賞を受賞するのは初めてという快挙です。

園部町内の小学6年生を対象に行った統計調査によると、長年の取り組みの結果、健全歯者率・DMF歯数（一人平均の永久歯の虫歯の本数）が、共に大きく改善しています。（左表）



今年度からは南丹市内の全幼稚園・保育所の5歳児および小学校において、このフッ化物洗口の実施を開始しました。丈夫な歯を作り、歯を大切にする習慣が身に付けられるよう、今後さらなる取り組みを進めます。

園部幼稚園が全国における学校歯科保健優良校表彰を受賞。園での取り組みなどを聞きました。

園部幼稚園では「歯を強くする魔法の薬」として、5歳児のフッ化物洗口が定着しています。また年間を通じて、子どもたちが歯に対する意識を常に持ち続けられるように取り組んでいます。おやつに黒いビスケットを食べて歯の汚れを実感したり、「ムシバイキン」の嫌いなおやつを考えたり、虫歯を治すと「はびかカード」がもらえたり。乳歯から永久歯に生

園部町でのフッ化物洗口の取り組みにかかわってこられた高屋歯科医にお話を伺いました。

私が園部町で歯科医を始めたころは、虫歯の子どもが大変多かったです。そこで、虫歯予防への取り組みを呼びかけ、2年後にフッ化物洗口の実施が始まりました。今年度からは市内全域の幼・保・小学校で実施が始まりましたが、さらには中学校での実施についても、現在、市と教育委員会へ要望しているところです。家庭では徹底できない歯への意識付けを、学

園部幼稚園 養護教諭
向條 由香里さん



え変わると、子どもたちは「大人の歯が生えてきた」とうれしそうに見せてくれます。反対に、虫歯のある子どももお弁当が楽しく食べられず、元気がありません。保護者の方には、虫歯ができたらずくに治療させて笑顔を取り戻してあげてほしいです。

(社) 京都府歯科医師会

口丹波支部長
(高屋歯科医院) 高屋 毅史さん



校など集団で取り組むことに意味があります。また、医療費の削減にもつながります。歯は一生ものです。大切にする習慣を身に付けて、朝晩の少なくとも2回はフッ素入りの歯磨き粉で歯を磨くように心掛けてください。

歯の不健康は万病のもと

歯や口の健康づくりが重要なのは、子どもだけではありません。厚生労働省の調査によると、35歳以上の80%以上が「歯周病」にかかっていると報告されています。そして、この歯周病は口臭の原因になり、歯を失う大きな原因の一つであるとともに、生活習慣病とも深い関係があるそうです。

「毎日ちゃんと歯磨きをしているのに」という方、「磨いている」と「磨けている」は違います。歯科医や歯科衛生士による指導を受けて、正しいブラッシング方法を確認してはいかがでしょうか。小さな子どもの場合は、歯科検診や保健指導時に保護者の方が指導を受け、子どもが自分で磨け



▲親子歯科検診（園部幼稚園2・3歳児）

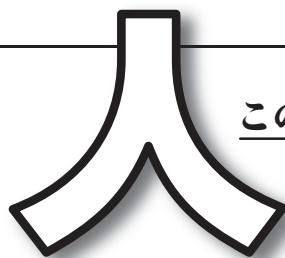
るようになってからも、小学校低学年までは磨き残しがないように仕上げ磨きをしてあげることが理想的です。

また、かむ力の低下は、体力や生きる力の低下につながるというわれています。歯の状態や年齢にあわせて、歯ごたえのあるものをしっかりとよくかみ、味わって食べるのが大切です。

80歳で20本、自分の歯を保とう

厚生労働省や日本歯科医師会では「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という「8020運動」が推進されています。現在の高齢者は、歯の保有率が比較的高いそうです。しかし、今の若い世代が高齢者となるころには、果たして歯の保有率はどうなるでしょうか。あなたは80歳で20本、自分の歯を保有している自信はありますか？自分の歯がある方はもちろん、入れ歯などの方も自分に合ったものを装着し、しっかりと自分で食事をするように心掛けましょう。そして食事、運動、睡眠などの生活習慣を見直すことも歯周病や生活習慣病の予防につながります。

「口は健康の入り口」。歯や口を健康に保ち、元気はつらつ、豊かな生活を送りましょう。



昭和54年から7期26年8カ月余り、園部町長として地方自治の発展に大きく貢献されました。その間、昭和63年6月から平成17年末まで京都府町村会長を務めたほか、



「地方自治の発展に大きく貢献」

旭日中綬章

野中 一二三さん(園部町・78)

全国町村会副会長を2期、旧厚生省や農林水産省をはじめ、全国規模や京都府の各種団体の要職を歴任。南丹市発足に向け、園部町・八木町・日吉町・美山町合併推進協議会長として尽力されました。園部町長在任中は、大学誘致をはじめとした学園都市づくり、「京都新光悦村」を核とした伝統工芸のまちづくり、「幼児の館・すこやか学園」の設置や子宝祝金などの子育て支援策、草の根の国際交流事業、町内全域のCATV網の設置、介護保険制度の円滑な導入や家族介護の充実に向けた取り組み、高齢者の就労対策、都市基盤整備や農林業振興、「資源の館」の設置による資源の再利用に向けた事業など、先駆的なまちづくりを実践されました。

旭日単光章

「地域福祉の向上に貢献」

故・谷 義夫さん(日吉町)

昭和46年4月から3期12年間、日吉町議会議員として地方自治の振興に尽力。特に、社会福祉の推進、交通安全の推進に力を注がれ、その手腕を大いに発揮されました。昭和59年7月から3年間は日吉町農業委員として、また昭和58年10月から18年間は日吉町社会福祉協議会長として、地域住民と町行政などのパイプ役となり、その豊富な見識と指導力で住民の先頭に立って複雑多岐にわたる問題解決などに取り組まれました。ご冥福をお祈りします。

現在の重症心身障害児・者施設「花ノ木医療福祉センター」（亀岡市）の前身である「花明学園」に、昭和47年8月から准看護師として勤務。以来、今日に至るまで37年3カ月の長きにわたり、重度心身障がいのある方々の看護と介護に誠実かつ精力的に取り組まれています。医療・福祉が連携した

章に際し、「ここまで勤続できたのも家族の理解と協力があったからこそ。純粹で懸命に生きる入所者からは、毎日私の方がパワーをもらっています。重い障がいのある方々が安心できる施設・環境の充実は今後の大きな課題であり、私たちの願いでもあります」と話されています。



「献身的な看護と介護に従事」

瑞宝双光章

明田 しげみさん(八木町・60)

療育体制で、幼児から高齢者まで幅広い入所者の健康保持、疾病予防、治療に携わるとともに、一人一人の特性をよく理解し、専門性の高い看護を実践されています。このたびの受

秋の叙勲 褒章受章者

昭和59年から平成4年の間、日吉町選挙管理委員会委員として、また平成4年から平成17年の間は同委員長として在任。在任期間中は国政選挙14回、京都府知事選挙

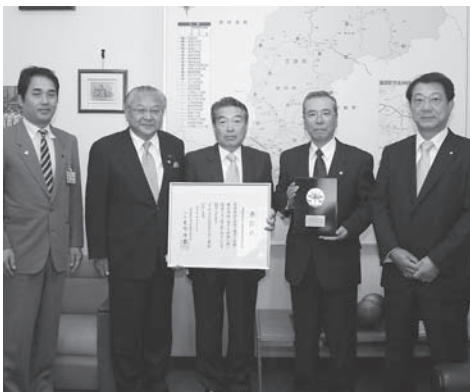


「円滑で適正な選挙執行に尽力」

藍綬褒章

山口 昭さん(日吉町・79)

5回、統一地方選挙5回に携わり、いずれも確実かつ円滑な執行に努められました。平成8年の衆議院議員選挙では、従来の中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へと制度が変わり、選挙人への周知徹底に努められ、混乱なく円滑に選挙を執行。在任期間中を通じて投票率向上のための周知・啓発活動に尽力され、公平公正な選挙推進のための研修などにも積極的に参加し研さんを積まれました。また平成18年1月から3月までは南丹市の選挙管理委員会委員に就任され、旧町単位の選挙区、開票所4カ所を設けた合併後の市長・市議会議員選挙の執行にあたっては、日吉選挙区を主に担当され円滑かつ適正に投票を執り行われました。



▲船越会長(中央)と近藤正也副会長(右から2人目)

優良民生委員児童委員協議会表彰を受賞

南丹市日吉町民生児童委員協議会(日吉町)

地域福祉の推進役として「安心・安全」の地域づくりに取り組み、見守り3K(子ども・高齢者・火災予防)活動を積極的に行っているとして、全国民生委員児童委員大会において優良民生委員児童委員協議会表彰を受賞。11月2日、船越重雄会長らが市役所に来庁され、市長に受賞報告されました。地域でのつながりが希薄になりつつある昨今、ニーズに合った対応で懸命に活動されています。



▲伝達表彰を受けられる八田氏(左)

全国公平委員会会長賞を受賞

八田 敦子さん(八木町)

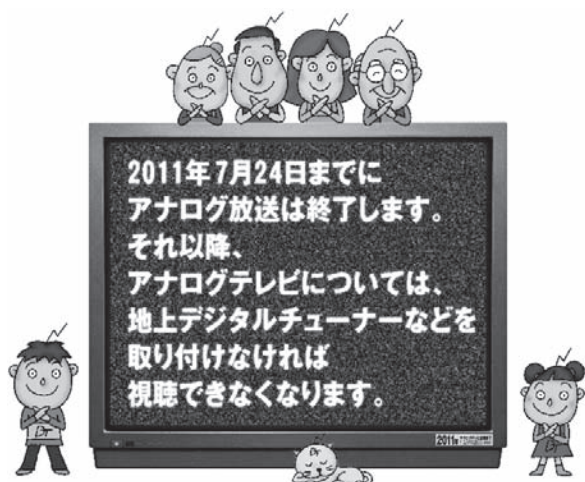
平成11年12月に八木町公平委員会委員に就任以来、合併後も引き続き南丹市公平委員会委員として、現在に至るまで延べ9年7カ月の長きにわたって職務に従事されています。この功績が認められ、10月23日に東京都内で開催された全国公平委員会連合会総会において、全国公平委員会会長賞を受賞。11月18日に、市役所で佐々木市長から賞状の伝達と、市から記念品の授与が行われました。

地上デジタル放送への 対応はお済みですか

情報整備
シリーズ
-10-

—2011年(平成23年)7月24日までにアナログ放送が終了します—

現在、日本で放送や通信に使われている電波は、これ以上すき間がないほど過密に使われています。これをデジタル化することで、周波数に余裕ができ、多様なサービスが可能となります。
アナログ放送が終了すると、地上デジタル放送(通称・地デジ)に対応していないテレビでは放送を視聴できなくなります。ご家庭の放送設備環境に合わせた対応が必要です。



2011年7月24日までに
アナログ放送は終了します。
それ以降、
アナログテレビについては、
地上デジタルチューナーなどを
取り付けなければ
視聴できなくなります。

地上デジタル放送を見るためには

高画質・高音質で視聴でき、さまざまなデジタル機能が楽しめる地上デジタル放送を見るためには、地上デジタル放送に対応したテレビが必要です。対応テ

① 「地上デジタルチューナー搭載機器ロゴマーク」



▲このシールが張ってあるテレビや録画機器などは、地上デジタル放送に対応しています。

② 「アナログテレビ注意喚起シール」



▲このシールが張ってあるテレビでは、地上デジタル放送は見る事ができません。デジタルチューナーなどを付ける必要があります。

レビを購入される際には、「地上デジタルチューナー搭載機器ロゴマーク」(図①)を参考にしてください。また、現在ご使用のアナログテレビや、図②の注意喚起シールが張ってあるテレビでも、地上デジタルチューナーあるいは地上デジタルチューナー内蔵録画機器を付けることで地上デジタル放送を見ることが出来ます。ただし、現在のアナログテレビで視聴する場合は、画質はハイビジョンではありません。

「地デジカ」をヨロシク!



私は、2011年7月の地上デジタル放送への完全移行に向けて、「地デジ化」を推進するために生まれたキャラクターです。頭に生えているツノはアンテナ。オスでもメスでも角があるのが特徴です。

- 誕生日: 2003年12月1日
- 完了日: 2011年7月
- 生息地: 日本
- 特技: カメラ目線
- 長所: あせらないところ
- 短所: おせっかい

なお、南丹市で地上デジタル放送をご覧になるには、南丹市のケーブルテレビ(CATV)に加入いただく方法と、一部の地域の方に限り自宅のアンテナ(UHF)で受信される方法があります。

地上デジタル放送になるとテレビはもっときれいになり、便利に、楽しくなります

ハイビジョンの高画質と高音質が楽しめます



ワイド画面、ハイビジョンの高画質、CDなみの高音質が楽しめます。

双方方向のサービスが可能になります



クイズやアンケートなどの双方方向サービスで、視聴者参加型の番組が楽しめます。

いつでも、ニュースや天気予報などの情報が見られます



データ放送により、リモコンのボタンを押すだけでいつでも、最新のニュースや天気予報、そのほか暮らしに役立つ情報などを見ることができます。

電子番組ガイド(EPG)で、録画予約も簡単に行えます!



番組表がテレビ画面上で見られ、当日から一週間先までの番組情報が検索できます。また、放送時刻の変更があっても、視聴予約や録画予約に、すぐ対応します。

※これらのサービスは、地上デジタル放送に対応したテレビで利用できます。

CATV加入者の場合

南丹市のケーブルテレビ(CATV)では、次のチャンネルの地上デジタル放送を送信しています。(表1)

南丹市CATV (表1)
地デジ放送チャンネル

1ch	NHK総合
2ch	NHK教育
4ch	毎日放送
5ch	KBS京都
6ch	朝日放送
8ch	関西テレビ
10ch	読売テレビ
11ch	自主放送なんたんテレビ

テレビ画面で確認しよう



テレビ画面の右上に、「アナログ」の文字が表示されている場合は、アナログ放送を受信しています。デジタル対応機器やデジタル受信機をお持ちでないが、アナログ放送をご覧の方もおられるため、アナログ放送が識別できるように画面右上に「アナログ」の文字が表示されています。

地上デジタル放送に対応したテレビをお持ちの場合は、アナログからデジタルへ切り替えるために、まずテレビ本体でデジタルチャンネルを設定してから、画面表示をデジタルに切り替えてご覧ください。(「アナログ」の表示は消えます)

地デジ放送に便乗した「悪質商法」にご注意を!

テレビの調査会社やアンテナ工事業者を装って、地上デジタル放送を受信するための費用を不正に請求したり、工事の勧誘を行ったりする例が起きています。

地上デジタル放送に関する誤った情報や不十分な情報に基づいて関連商品・サービスを売りつける悪質商法にご注意ください。不審な請求や調査、訪問などがあれば、最寄りの警察署か放送受信相談センターへお問い合わせください。

地デジ放送に関するお問い合わせ

地上デジタルテレビジョン
放送受信相談センター
TEL 0570-07-0101
CATVに関するお問い合わせ
南丹市情報センター
TEL 0771-63-1777

つ つ
く く
り る
て て
手 手
の が
い あ
る っ
ま て
ち て
が て
あ て
る て
…

10月31日、11月1日の2日間、「南丹ものづくりの祭典」を開催。京都新光悦村をメイン会場に、京都伝統工芸大学校、南丹市国際交流会館、南丹市立文化博物館の4会場それぞれ「南丹市のものでづくり」をテーマに多彩な催しを繰り広げました。市内外からお越しいただいた多数の来場者には、文化の体験や地域の味わい、数々の伝統的工芸品に触れていただくことができました。



▲京都新光悦村の進出企業、京都府、南丹市による「村開き式典」



◀▲文化体験百貨店で地域に伝わる伝統的な技術を体験
(上：しめ縄づくり、左：干し柿づくり)



▲第26回伝統的工芸品月間国民会議全国大会記念式典
(10月28日、京都伝統工芸大学校にて)



▲ずらりと並んだ「掘り出しものマーケット」



◀道にお絵かき「キッズらくがきコーナー」



▲南丹市内工芸家による作品の展示・即売会



▲小学校太鼓クラブなど市内8団体が出演した「なんたんビートフェスティバル」
▼「京都府中部文化芸術祭よさこい踊りフェスティバル」



メインステージでは、京都新光悦村村開き式典、南丹市文化祭総合開
会式、平成21年度京都府中部文化芸術祭よさこい踊りフェスティバルを
順次開催。国際交流会館会場では、第4回なんたんビートフェスティバル
を開催しました。また、井筒八ツ橋新光悦店内では、京都新光悦村の立
地企業の紹介パネル展や、「京の伝統工芸子ども教室2009展」、「京
都府内産材もくもくコンクール優秀作品展示」も行いました。



◀応援にかけつけてくれた「国民文化祭・
京都2011」のPR隊長の「まゆまる」



▲たくさん子どもたちや家族連れでにぎわった味わいスクエア、縁日コーナー、らっきょむさんの紙芝居コーナー



◀源氏物語千年紀特別展示
(南丹市立文化博物館会場)



▲地元加工グループなどによる特産品販売「南丹食の祭典」



▼「南丹食の祭典コンテスト」の審査風景(京都伝統工芸大学校会場)



◀南丹船井中学校美術工芸展
(南丹市立文化博物館会場)



◀市内の子どもたちによる手
作りの竹灯り



夕方、京都新光悦村会場内では、灯りのモニュメントや竹灯りに柔らかな灯がとり、幻想的な景色が浮かび上がりました。その中でフリーアナウンサーの星野祐美子さん(左写真の左)が、一般公募した手紙形式の作文や物語を朗読。また、美山中学校2年の大野扶美可さん(左写真の右)が平成21年度第31回「少年の主張」京都府知事賞を受賞した作文「気付いてほしい幸せ」を発表しました。会場からは、感銘を受けた聴衆の、時折すすり泣く声も響いてきました。



▲九州(熊本県)から参加していただいた「ちかけん」プロデュースの竹灯り



▲「灯りのモニュメント」



▲子どもたち手作りの「竹灯りの道」

功績、善行をたたえ、表彰

—平成21年度南丹市表彰式—



11月13日、南丹市国際交流会館コスモホールで、南丹市表彰式を行い、功績や善行のあった方をたたえ表彰しました。今年度は、

自治功労者1人、功績者8人、善行者1人、1社に表彰状(盾)を贈呈しました。受賞者は次のとおりです。
(順不同・敬称略)

■自治功労者■

市の要職にあった方や、本市の自治および公益に関して特に功労が顕著であった方をたたえ表彰するものです。

仲村 脩

平成11年4月25日から平成17年12月31日までの6年8カ月間にわたり、旧日吉町の町長

として、地方自治の発展と住民福祉の向上に寄与。

■功績者■

市の自治振興、教育・文化・スポーツの振興、社会福祉・保健衛生の推進、産業振興において特に功績があった方をたたえ表彰するものです。

中瀬 義和

グループホーム「ちくりんえん」や居宅介護訪問介護事業を開業するなど、社会福祉法人「未生会」役員として、多年にわたり社会福祉の向上に貢献。

山内 三郎

福祉送迎サービスや給食サービスの積極的な展開など、旧美山町社会福祉協議会長、南丹市社会福祉協議会副会長として、多年にわたり社会福祉の向上に貢献。

杉山 俊夫

精神障害者支援施設「園部共同作業所」職員として、多年にわたり社会福祉の向上に貢献。

西井 久和

障害者支援施設「京都太陽の園」「こひつじの苑」職員として、多年にわたり社会福祉の向上に貢献。

内藤 勉

障害者支援施設「こひつじの苑」「京都太陽の園」職員として、多年にわたり社会福祉の向上に貢献。

西岡 博文

障害者支援施設「京都太陽の園」「こひつじの苑」職員として、多年にわたり社会福祉の向上に貢献。

中西 雅子

障害者支援施設「こひつじの苑」職員として、多年にわたり社会福祉の向上に貢献。

佐々谷 吉美

米の消費拡大、地産地消の推進、農産物の流通拡大など、農業の振興および発展に貢献。

■善行者■

市の公益のため多額の私財を寄附した方や、人命救助をした方、善行や業務精励で市民の模範となる方をたたえ表彰するものです。

南谷 容宏

「ふるさと南丹応援寄附金」として多額の私財を寄附。

株式会社 宏誠

「ふるさと南丹応援寄附金」として多額の私財を寄附。

行政 トピックス

共に語り合う、地域の課題
住み良いまちをつくるため

—平成21年度市政懇談会—

昨年度に引き続き、今年度も10月20日から11月25日まで、市内8会場において市政懇談会を開催しました。今年度は『共に語ろう、これからのまちづくり』をテーマに、地域が抱える問題や地域特有の課題についてお聞きし、市民の



▲地域の課題について意見が交わされました



▲市政の現況を説明する佐々木市長

皆さんと行政との協働による住みよいまちづくりを進めていくことを目的に実施しました。8会場ですべ363人の市民の皆さんにご参加いただき、野生鳥獣被害、新型インフルエンザ対策、市道・橋りょう改修、高齢化が進む集落の課題など、さまざまなご意見、ご提案をいただきました。お聞かせいただいたご意見、ご提案は十分に検討し、今後の市政運営の参考にさせていただきます。

なお、次号広報なんたんでは、質疑回答の一部を掲載させていただきます。また、議事録についても、市役所行政資料コーナーおよび南丹市ホームページで公開する予定です。

優れた技能を未来に伝える

—京都府農山漁村
伝承技能登録証交付式—

10月29日、京都府園部総合庁舎で平成21年度京都府農山漁村伝承技能登録者に登録証が交付されました。農林水産分野の優れた技能を守り育てるために技能保持者を登録するもので、南丹市では、内藤定夫さん（園部町・高品質トマトの生産技術）、竹上貞美さん（八木町・饅頭づくり）、久野克己さん（日吉町・わら細工）の3人に交付。今年度は南丹管内で13人が登録され、累計で500人を越えました。



▲登録証の交付を受ける竹上貞美さん（左）



▲選定を受ける寺井憲治さん（右）

地元産品と消費者をつなぐ

—「地産地消の仕事人」選定—

地場農産物の生産、流通・販売、加工など地産地消の取り組みに關する知見や経験を有する方々を農林水産省が選定する「地産地消の仕事人」。2回目となった今回の選定では全国で41人、南丹市では美山町の寺井憲治さん（株式会社ネットワーク平屋取締役）が選ばれ、10月20日に南丹広域振興局で選定書が授与されました。寺井さんは、「京都・美山」の個性を生かした地元産品の販売促進に努め、素材に付加価値を生む新商品の開発にも取り組まれています。

ふるさと自慢の加工品輝く

―南丹食の祭典コンテスト
最優秀賞「黄金芋」―

「南丹ものづくりの祭典」の催しの一つとして開催した「南丹食の祭典コンテスト」。市内の各加工グループから25点のこだわりの品が出品され、10月31日に審査を行いました。最優秀賞には、地元産のサツマイモが使われ、日本の原風景のある美山の田舎らしさがでているとの評価で、大野農産加工グループの「黄金芋」が輝きました。今後1年間、「ものづくりのまち南丹市」のロゴマークの入ったシールを付け、市内外へとアピールしていきます。



▲シナモン風味でホクホク感のある「黄金芋」

先人から継承した環境守る ルール作りに向けスタート

―第1回南丹市環境審議会―

南丹市美しいまちづくり条例に基づく南丹市環境基本計画を策定するため、第1回環境審議会を11月9日に市役所で開催。佐々木市長から委員16人に委嘱状を交付し、会長に中川重年氏（京都学園大学教授）を選出しました。地球規模での環境影響や、南丹市における山林の荒廃など環境基本計画を策定するにあたっての背景、11月下旬から実施する地域ヒアリング調査をはじめ今後の策定スケジュールについて確認しました。



▲計画策定に向けて基本的事項を確認

今冬も除雪、お願いします

―南丹市・京丹波町
雪かき隊出動式―

除雪期間（12月1日～3月15日）を迎え、「雪かき隊出動式」を12月3日に南丹市美山支所で開催。参加したみやま保育園幼児、宮島小学校児童を代表して湯浅龍典くん（宮島小4年）が通学路の除雪に感謝し、「体に気を付けて頑張ってください」と激励。菅井達夫美山町建設業協会会長が「安全第一に迅速な除雪作業を行います」と決意を述べられました。子どもたちは3台の除雪機械に搭乗したり、大きなタイヤと背比べしたり大喜びでした。



▲除雪機械に搭乗。「うわ、高い〜」

広がる企業参加の森づくり

―「森林の利用保全に
関する協定」調印式―

11月11日、京都市内において石油エネルギーとカーケアの総合商社モリカワグループ（木下泰一代表取締役会長）と、京都府、南丹市、美山町江和区、社団法人京都モデルフォレスト協会との「京都モデルフォレスト運動」推進のための協定が締結されました。当グループは、地球温暖化防止活動の一環として美山町江和地内の山林約0・2haで広葉樹を植栽し、今後、地元の方々などの協力を得て、社員や家族などによる育成・整備や環境学習を進めていけます。



▲協力関係を確認して行われた調印式

いきいき南丹

-35-

お元気ですか？
保健師です。



インフルエンザから身を守る！

徹底した対策と抵抗力アップで感染を予防！

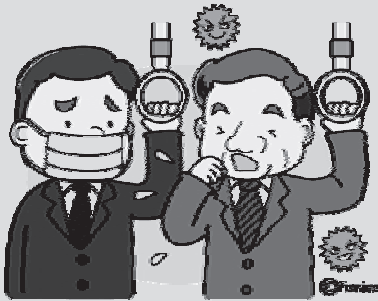
空気が乾燥する12月から3月は、
新型インフルエンザ・季節性イン
フルエンザの流行が、さらに懸念
される時期です。

ウイルスからわが身を守るため
に取り組んでおきたい事、それは
予防対策と抵抗力の高い身体づく
りです。

予防と抵抗力アップ対策

- ① なるべく人込みを避けましょ
う。
- ② 外出する時はマスクを着用しま
しょう。
- ③ 帰宅後は、せっけんでの手洗い
とうがいをしましょう。
- ④ 栄養バランスのとれた食生活と
適度な運動で体力を高めましょ
う。
- ⑤ 十分に休養をとり、疲れを残さ
ないようにしましょう。
- ⑥ 室内の温度は20度前後、湿度は
60%程度に調節しましょう。

「せきエチケット」とは？



せき、くしゃみ、鼻水など
の症状があるときは、マスク
をつけましょう。

マスクがない時はティッ
シュなどで口と鼻を押さえ、
周囲の人から顔をそむけ、な
るべく1m以上離れましょう。

⑦ 「せきエチケット」を守りま
しょう。

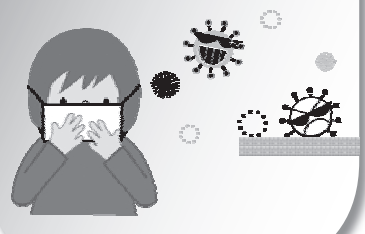
栄養や睡眠を十分にとり、
体調を整える。



手洗い・うがいをきちんと
行う。せきエチケットを心
掛ける。



必要な時以外は、人ごみを
避ける。マスクを着用する。



予防接種について

新型インフルエンザワクチン接
種は、国の「ワクチン接種の基本
方針」に基づき、京都府において
ワクチン接種のスケジュールが定
められています。現在、ワクチン
の供給量が不足しているため、
新聞などで報道される接種スケ
ジュールと同様には進行しない事
が予測されます。ワクチンの供給
状況に応じて順次接種が開始され
ますので、新しい情報が入り次
第、「お知らせなんたん」や南丹
市ホームページ、CATVなどで
随時お知らせします。

なお、予防接種は重症化の防止
に一定の効果が期待されますが、
インフルエンザそのものの感染を
防止する効果は証明されていませ
んで、接種したからといって感
染しないわけではありません。や
はり感染予防が重要となります。
毎日の予防対策をしっかり行い、
インフルエンザの流行時期を元氣
に乗り切りましょう！

相談窓口

各医療機関の診療業務やワクチ
ン接種業務への影響を考慮いただ
き、ワクチン接種やインフルエン
ザに関する一般的なお問い合わせ
は、健康課（TEL 0771・68・
0016）へご連絡ください。

「『大切にすること』の大切さ」



「全校生のよいところみつけ」や「スイセン(人権の

毎 年11月から12月にかけて、なかよし(人権)月間を設定し、学校全体、または学級や学年での取り組みを行っています。今年度の児童会のスローガンは、「心ぬくぬく大作戦 やさしさいっぱい 友達いっぱい」です。学級や委員会です話合って、目当てや取組内容を決め、「全校生のよいところみつけ」や「スイセン(人権の

「○ちゃん、がんばって」「最後までがんばれ」「もうちょっと、もうちょっと」…。園部第二小学校の2学期は、運動会、駅伝大会、マラソン大会と大きな行事が続きます。特にリレーやマラソンで最後まで懸命に走っている友達への声援は一段と大きなものとなり、その声援に支えられて見事ゴールすると、走っている子も応援している子もみんなが、満足感いっぱいの笑顔になります。

花)の水栽培、「人権に関する本の紹介」などを行いました。日ごろは意識していない自分の行動や言葉について振り返り、「人を傷つける言葉を使わないようにしましょう」「もめごとの原因を作らないように一人一人が気を付けよう」ということを話し合った学級もありました。このような取り組みをすることにより、「命を大切にすること」「人を大切にすること」「自分を大切にすること」を考え、また、教職員が子どもたちの日常での優しさや頑張りを見つけてカードに書いて掲示するという取り組みも行っています。

い つも周りの大人や友達から優しい言葉をかけてもらっていて、自分が大切にされていると思える豊富な経験をしている子は、友達が困っている場面に出会うと優しい言葉をかけられます。子どもたち一人一人の「よいこと」「困ったこと」もすべて受け入れ、認めた上で、「自分は大切にされている」と感じられる経験を増やしていくことが私たち大人の役目だと考えています。

(園部第二小学校 人権教育主任

藤原 尚子)

環・境・市・民



今回のエコロジスト

植月千砂さん

(美山町内久保



美山町にある自然派カフェ「アーサー」を営む植月千砂さん

さんの住まいはパーマカルチャー(※)の手法を取り入れて設計された、まるで小さな地球。150種類の食べられる植物が育つ有機ガーデンに雨水タンク、まきストープなど、水やゴミの循環、自然エネルギーの活用というさまざまな環境対策を重ね合わせて、暮らし全体が自然に溶け込んでいます。

有機ガーデンで直径2mほどの楕円形の池を発見。今は冬枯れのビオトープです(写

真)。ビオトープは多種の生物が互いにつながりをもつて生きられる環境のことです、そこにはスイレン



のほかクワイなど食用の水生植物も育っています。トンボが産卵しに來たり、カエルが自然にすみ着くようになったり、ガーデンの害虫などを食べてくれる自然の生態系がここにもあります。

「夏にはガーデンのあちこちでモリアオガエルが見られます。まるで自然豊かな森のような世界ですよ」と話す植月さんの笑顔がとても印象的でした。ビオトープは、プランターやスイレン鉢などで手軽に作ることもできます。

※パーマカルチャーとは：持続可能な農業を基本としながら循環型社会を目指す、地球に負担をかけない生き方のこと。

(環境課)



知りタイガー!、読みタイガー!、聞きタイガー!

寅(とら)年の今年も、図書館で一人でも多くの方が忘れられない1冊の本と出合うことができそうですよ!

紀元前の昔から図書館は世界中で存在し、書物を収集・保存・提供することで、先人の知恵を後世に伝えるという重要な使命を担っています。

さて、南丹市民の皆さんは昨年1年間、図書館でどのくらい『先人の知恵』と出合っていたでしょうか? 先人の知恵という大げさか

もしれませんが、何げない小説の中からも、悩みを解きほぐし、生きる支えになる文章と出合うこともあります。

今年の干支は寅。『知りタイガー!、読みタイガー!、聞きタイガー!』で、今年も図書館は、皆さんの「知りたい、読みたい、聞きたい」好奇心を応援します!

新刊紹介



『ビッグブック』

100かいだてのいえ

作…いわいとしお

発行…偕成社

この細長〜い本、縦の長さは116センチ! 100階建てのてっぺんまで、1階から順番に絵を上になぞりながら、上っていきましよう。



『かぎ針編みの湯たんぽカバー』

発行…日本放送出版協会

エコで安全ということ、湯たんぽが見直されています。あったかい湯たんぽに手づくりのカバーを付けてみませんか? 温かさ倍増間違いなし!

暮らした



—第5回—
消費生活情報

◇過量販売被害に

新たな救済制度!

悪質な「過量販売」を規制

ひとり暮らしの高齢者が訪問販売で布団や健康食品、住宅リフォームなど同種の商品やサービスが必要な量を超えて契約せられ、家族などが気付いた時にはクーリング・オフ期間も過ぎていたという被害が全国的に発生しています。

こうした被害を未然に防ぎ、また、被害から救済するため特定商取引法が改正され、「過量販売」が規制されることになりました。(平成21年12月1日施行)

この制度はクーリング・オフに似ていますが、申し込みの撤回または解除をすることができ、期間が「契約締結日の翌日から1年間」となっています。

断りきれず...

【相談事例】

ひとり暮らしの高齢者の母の家を訪れた時に、新しい布団が5組積んであった。母に聞くと6カ月前に販売員が来て断りきれずに契約したと言う。契約書面も整っており、クーリング・オフ期間も過ぎていたが、断りきれず悩んでいる。



…という場合、「過量販売」に当たると契約解除をすることができます。「解除通知」を販売業者(クレジット契約をしている場合には同時にクレジット会社にも)に、配達証明付き内容証明などで送ります。契約解除の方法など、詳しいことは商工観光課 (Tel 0771-6810050) へお問い合わせください。

なお、「過量販売」とは、その消費者の日常生活において通常必要とされる分量を超える商品の販売や役務の提供をいい、過量の判断は消費者の家族構成やライフスタイルによって異なります。

(商工観光課)



地元のものを、地元でいただきますよう

～園部町つつじの会～



しめじ昆布

【材料】

日高昆布 (250g)
ハタケシメジ (800g)
しょうゆ (800cc)、酢 (100cc)
砂糖 (400g)、うまみ調味料 (適量)
みりん (100cc)

【作り方】

- ① 昆布は水につけて柔らかくしておく。
 - ② 昆布を適当な大きさに切る。
 - ③ 鍋に昆布、ハタケシメジ、分量のしょうゆ、酢を入れ、弱火でコトコト炊く。
 - ④ 途中で砂糖、うまみ調味料を加える。
 - ⑤ 仕上げにみりんを加えて照りを出す。
- ※ゆっくり、じっくり煮詰めるのがコツです。



▲寿司や山菜ごはん、お昼にいかが？

園部町つつじの会
会長 高屋 道子さん
TEL: 0771-63-5035
(道の駅京都新光悦村内、午前中)

園部のまちで一年中元氣いっばいに咲くつつじの花たち。それは、道の駅「京都新光悦村」園部町曾我谷併設の加工施設を拠点に活動する「園部町つつじの会」の女性たちです。平成13年に旧園部町の女性加工グループ4組織と2人のおふくろ名人で会を設立。平成15年の道の駅オープン以降から本格的に活動を開始されました。現在は会員12人で、弁当や巻き寿司、ちらし寿司、サラダ生うどん、山菜ごはん、みそなどを作って店頭で販売されています。

特に、「地産地消」への取り組みに力を注がれており、米や野菜などの原材料は会員が作ったものや地元産のものを調達。安心できる家庭の味を届けておられます。



▲米・米粉を使ったアイデア料理

また平成17年度からは毎年、「園部町つつじの会」主催の食にかかわるコンテストを開催。「お母さんの手作りあったか弁当」や「南丹地域おばんざいコンテスト」、そして今年度は「南丹地域特産品一品『米』コンテスト」を実施。米・米粉と地域の特産物が生かされた、彩り鮮や

かな35点のアイデア料理が並びました。コンテストの作品展は、毎回取りまとめてレシピア集にして発行し、さらなる消費拡大にも積極的に取り組まれています。

これら活動の数々が、地域の農業振興と活力ある農山村づくり大きく寄与されたとして、11月28日には京都府農林水産業功労者表彰を受賞。京都府知事から表彰状と記念の盾を贈呈されました。

そのほかにも、弁当の出前販売や各イベントへの出店参加、さば寿司講習会の開催など、女性たちのパワーはとどまることを知りません。商品には、心の込められた温かさ、女性たちや地元産材料の活力が、いっぱい詰まっています。

みんなのひろば

まちの話題を紹介します

11月4日から6日の間、園部中学校2年生163人が市内52事業所で勤労体験学習を行いました。

園部幼稚園に体験に行った生徒は19人。先生の補助、園児と遊ぶ、園児が帰ってからの掃除などの仕事がありました。生徒は「体力的に疲れた」「子どもに合わせないといけないから大変」などと話しながらも、子どもが好きと言う生徒が多く、楽しそうに園児と接していました。「将来は幼稚園の先生になりたい」と言う人もいました。

3日間、生徒みんなは責任を持ってそれぞれの仕事に取り組んでいました。

※この記事は、情報推進課で広報の勤労体験をした太田晃裕君が実際に取材をして作成したものです。取材を通して太田君は、「広報の仕事は大変。でも、インタビューや文章作成など、いろいろな過程を経て記事ができていくことがわかった。地域の人に園部中学校のこの取り組みを少しでも知ってもらえたらいいと思う」と話してくれました。

「楽しさ、大変さ、責任の重さ実感」

(11/4~6 園部中学校2年勤労体験学習)



▲園部幼稚園で紙芝居の読み聞かせをする生徒 (太田君撮影)

「新たなにぎわい拠点でまちおこし」

(10/18 ふる里ファーム五ヶ荘開店式)

日吉町四ツ谷の五ヶ荘小学校跡地で、地場野菜などの販売ブース「ふる里ファーム五ヶ荘」がオープン。手作りの木製看板が立てられ、地元ならではの旬の新鮮野菜などが並びました。オープン記念につきたてのもちや枝豆が振る舞われ、地元の方々や通りがかりの方でにぎわいました。代表の久世和夫さんは、「五ヶ荘小学校跡地利用検討委員会による要望の1つとしてようやく実現。テント販売から徐々に定着させて、規模の拡大とさらなる跡地利用に発展させていきたい」と語っておられました。毎週日曜日の午前中に開店されています。



▲オープン当日の目玉商品はマツタケでした

「ゴルフって面白い センスの光る子も」

(10/25 南丹市スポーツ少年団交流事業)



▲長谷川プロの指導でゴルフレッスン

野球や剣道など異種目に所属する市内スポーツ少年団員たちが参加し、府民の森ひよしでバーベキューをしながら交流。その後、クラウンヒルズ京都ゴルフ倶楽部に移動し、経験する機会の少ないゴルフの体験が行われました。当施設と昨年4月に設立した南丹市ゴルフ協会の協力の下、プロゴルファー長谷川義則氏も指導に駆け付け、スイングの仕方やマナーを教わりました。ゴルフは初めてという子どもも多く、十分にレッスンを受けた後、実際にコースを回りました。



▲高齢者に火の用心を呼びかけて回った防火訪問

地域住民の防災意識のさらなる向上と、地域における防災力の強化を目的に、八木町南地区自治会および区長会が地震発生を想定した防災訓練を実施されました。消防団・消防署や社会福祉協議会の協力の下、今回初めて地域主導で実施され、住民の安否確認や避難訓練、初期消火や炊き出しの訓練が手際良く行われました。午後からは11班に分かれてひとり暮らしの高齢者宅66件を訪問し、火の用心などについての啓発・点検が行われました。

11/15 八木町南地区防災訓練

「いざ！自らの地域は自らで守ろう」

「水源地の日吉ダム直下で秋満喫」

秋の恒例イベント「ひよし水の杜フェスタ」がスプリングスパークで行われ、たくさんの家族連れでにぎわいました。保育園児による元気いっぱいの「わんぱく太鼓」をオープニングに、園部舞組爽龍隊のよさこいダンス演舞、たむらけんじさんらを招いて爆笑に渦巻いたよしもと爆笑ライブ、歌謡ショーなどがステージで繰り広げられました。また、会場内には地元ならではの食材で趣向をこらした模擬店やリサイクルマーケットなどが並びました。



▲元気いっぱい太鼓演奏する保育園児たち

10/25 ひよし水の杜フェスタ2009

「みんな楽しく、元気になるよ！」



▲オープニングの「ワークセンターびび」和太鼓演奏

障がい者や高齢者が主役になり、元気になる取り組みとして、初めての「美山福祉のつどい」が美山文化ホールで開催されました。身体・知的・精神の障がい者団体や家族の会と一緒に活動したいとの思いから実行委員会が発足。美山町内の福祉施設や民生児童委員協議会など14団体の協力の下、ステージでは施設の活動紹介や和太鼓演奏、全盲の箏曲家梶寿美子さんによる演奏などで盛り上がり、また展示・販売、体験コーナーもあり、地域が一体となって福祉を考えるつどいとなりました。

12/5 美山福祉のつどい2009

「いきいき文化・創造活動などを行う「南丹市園部女性の館」が南丹市国際交流会館で文化祭を催し、講座やサークル活動で制作した作品を展示・販売。さをり織りやきものリフォーム、ガラス絵、陶芸など華やかな作品が並べられ、訪れた方々は技術の高さに関心を寄せていました。初日はフラワーアレンジメントやクレイアートの体験も実施。吉田一子会長は「男性の参加も大歓迎。今後はもっと広く参加しやすい内容を考えたい」と話されていました。」

女性がいきいきと学べる場として、



▲黄のクレイアートに絵付けを楽しむ体験参加者

11/7~8 「女性の館」文化祭

ニュースダイジェスト

— 広報なんたん 2009 —

平成21年の南丹市1年間の主な出来事を
カレンダーにして振り返りました。

8日 第3回南丹市男女共同参画フォーラム

『キラリなんたん!』
園部女性の館が
着物リフォーム・
さをり織りファッ
ションショーで
オープニングを
飾りました。



14日 JR山陰線八木-園部間の複線化工事完了・供
用開始

八木-園部間(約6km)の複線化工事完了に伴
い、供用を開始しました。

20日 天引道路完成式典

平成7年度から進めてきた国道372号(天引道
路)の第2工区バイパス区間1.3kmが完成し、供
用を開始しました。

27日 第1回南丹市都市計画マスタープラン策定委員
会

28日 南丹市国際交流協会設立総会

「国際交流都市」南丹市」を目指した国際交流
活動拠点が設立。

29日 北多目的交流拠点施設「知井の里情報発信館
ゆらり」しゅん工式

31日 あじさい園改築工事しゅん工式

4月

1日 市役所組織再編

平成20年7月に新設した「総合政策課」を市長
直轄の「総合政策室」とし、幼稚園・保育所の事
務を福祉部に一元化しました。

南丹市消防団入退団式・辞令交付式

新たに61人が加わり、団員数は1,540人になり
ました。

南丹市商工会商品券販売開始

固定資産税・都市計画税の税率統一

4日 第16回大堰川さくら祭り

4日~12日 第24回京都・美山大野ダムさくら祭り

16日 南丹警察署園部駅前交番新築開所式

22日 八木バイオエコロジーセンター「新エネ百選」に
選定

23日 西の鯖街道協議会発会式

26日 第12回日吉ダムマラソン大会

1月

11日 南丹市消防団出初式

団員の功績、勤続をたたえて、京都府消防協会
長表彰、市長表彰、団長表彰を行いました。

南丹市成人式

新成人312人出席の下、園部公民館で20歳の
門出を祝いました。

※対象者 423人

・園部 237人

・八木 82人

・日吉 62人

・美山 42人



23日・24日 地域協働トライアル

住民、大学生、行政職員などがそれぞれの立場か
ら、協働と連携による地域づくりの方策を検討。

25日 大堰川ジョギング大会

28日 南丹市液肥利用協議会設立総会

近畿バイオマスセミナー

31日~2月1日 南丹工芸文化祭

2回目の開催。「南丹職人発見マップ」作成。

31日~2月7日 かやぶき雪灯廊

2月

9日 サイパン島青少年交流団歓迎会

12日 平成20年度南丹市表彰式

市に功績があった方々11人を表彰。

NHKきょうの料理・全国キャラバン公開収録

15日 第3回美山フォーラム

22日 南丹市スポーツ・文化賞表彰式

市のスポーツおよび文化の振興・発展に貢献さ
れた13団体と112人の方々を表彰。

3月

3日 井筒八ツ橋本舗新光悦しゅん工式

京都新光悦村進出5社目。新工場では、伝統和
菓子の製造販売や地元産品を生かした商品開
発が進められ、店内には展示・イベントなどに活
用できる多目的スペースもあります。

10月

- 1日 上下水道料金の改定
- 4日 南丹サンサン祭
- 5日 京都新光悦村の会設立総会
にぎわいコンソーシアム園部設立総会
- 15日 南丹市戦没者追悼式
- 18日 ふる里ファーム五ヶ荘開店
- 20日～11月25日 市政懇談会



『共に語ろう、これからのまちづくり』をテーマに市内8会場で懇談会を開催。延べ363人に参加いただきました。

- 25日 ひよし水の杜フェスタ2009
- 28日 第26回伝統的工芸品月間国民会議全国大会記念式典
- 31日 京都新光悦村村開き式典
なんたんビートフェスティバル
よさこい踊りフェスティバル
- 31日～11月1日 南丹ものづくりの祭典
2日間にわたって南丹市の「ものづくり力」を市内外にアピール。多数の来場者に、地域に根付く食文化や伝統の技を体験いただきました。

11月

- 3日 美山ふるさと祭・かやぶきの里ワンデーマーチ
- 13日 平成21年度南丹市表彰式
自治功労者1人、功績者8人、善行者1人・1社を表彰。
- 14日～15日 第21回京都・美山大野ダムもみじ祭り
- 15日 八木町南地区防災訓練
- 26日 市民と共に担うまちづくり手法「提言書」提出

12月

- 3日 南丹市・京丹波町雪かき隊出動式
- 5日 美山福祉のつどい2009(第1回)
- 18日 府道長谷八木線バイパス開通
八木町の国道9号本郷入口からJRと東所川をまたぎ、市道春日神社線を結ぶバイパスが開通しました。



- 30日 南丹市子育て発達支援センター開設式
発達支援相談事業、療育事業、日中一時預かり事業を包括して行う施設を旧川辺保育所地に開設。

5月

- 21日 全国で裁判员制度スタート
殿田小学校改築工事しゅん工式
平成18年度から3カ年計画で行ってきた改築工事が完了。
- 31日 2009美山サイクルロード

6月

- 25日 「殿田を美しくする会」環境大臣表彰伝達式
- 27日 南丹市女性ネットワーク会議設立総会
- 30日 仲村脩副市長退任式

7月

- 1日 南丹市農業委員会新委員就任
ふるさと共援活動組織協定「元気ネット!五ヶ荘」協定調印式
「美山のめぐみ牛乳工房」しゅん工式
- 19日 ひよし夏祭り2009
- 31日 紅葉山トンネル貫通式

8月

- 1日 2009南丹そのべ夏まつり
殿谷さわやかロード国土交通大臣表彰受賞
- 1日～10日 天若湖アートプロジェクト「水の杜展」
「あかりがつなく記憶」
- 14日 第63回南丹市やぎの花火大会
- 15日 第26回清流美山の鮎まつり
- 23日 ものづくり南丹文化伝承特別講演会
国民文化祭800日前記念イベントとして特別講演会を開催。
- 30日 衆議院議員総選挙投・開票日

9月

- 1日 可燃ごみ指定収集袋がリニューアル
消費者庁発足
- 5日 京都府総合防災訓練・防災講演会
- 12日 第9回「能楽の夕べ」美山かやぶき新能
- 17日 南丹市優良建設工事表彰
- 19日 「大谷口遺跡」現地説明会

なんたんミュージアム -18-

―南丹市立知井小学校―

※担任の先生、担当教科の先生の
の講評を掲載しています。

「『ロックおんど八木ぶし』をおどったよ」
森 晴日さん（1年）



▶たすきをかけて、なえ棒を持って、
楽しく踊った様子がしっかりと描けま
した。

「私の守り神『コウフクモリ』」
青山 真梨乃さん（5年）



▲厚紙と和紙を使って作った、幸福を
運んでくれる守り神のお面。針金と透
ける紙で、羽に工夫ができました。

「全力をつくしたぼうとり」
曾利 大輔さん（4年）



▲運動会の種目の一つ「ぼうとり」で
力を込めて引いている様子が伝わっ
てきます。

「名画の中に入れてみたら」
河野 さなえさん（6年）



▲名画「富嶽三十六景武州玉川」が立
体的に表せました。名画の中に工夫し
て自分を入れることができました。

編集後記

平成21年は私にとって大き
な環境の変化、いろんな出来
事がめじろ押しでした。新た
な命を宿してどんどんふくら
むお腹をめながら、子ども
の笑顔が輝く環境・未来をこ
の手で築き守っていかなくて
はならない責任を心地よく感
じています。家庭づくりにも
「協働」は必須。家庭・まち
を担うのは一人一人の力と存
在の結集なのでしょう。

(A)



市の花 さくら 市の木 ふな 市の鳥 オオルリ

森・里・街がきらめくふるさと 南丹市
なんたんし



●総人口：34,842人(-31)
(男：16,768人・女：18,074人)
(-11) (-20)
●世帯数：13,562世帯(-9)
(平成21年12月1日現在)
()内は前月比



●園部町

中村

みすず
美涼ちゃん(4カ月)

「これからたくさん笑顔で応えてね♪」

(パパとママより)

写真掲載の応募をお待ちしています。(応募数によっては順番待ちになることがあります) 詳しくは情報推進課広報広聴係まで

広報
なんたん

編集・発行：南丹市役所 企画管理部情報推進課
〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

TEL:0771-68-0019 FAX:0771-63-0653
URL:http://www.city.nantan.kyoto.jp
e-mail:jouhou-s@city.nantan.kyoto.jp



本紙は環境への配慮から、水なし印刷、森林認証紙、ソイインキ(大豆油)を採用しています。